



さわやか

題字 安藤紫水氏揮毫

NO. 47 新年号
2015年1月発行
栄区文化協会
<http://sakae-bunkyo.com>

【栄区民芸術祭の園芸、美術の展示作品より】



菊 懸崖(幹が根よりも低く垂れ下がった菊)



盆栽 杜松 (としょう)
(古色蒼然とした伊勢杜松)



東洋蘭 寒蘭
(日向寒蘭の青花)



山野草 南蛮ギセル
(屋久島糸ススキに寄生)



油彩画 レイクサイドの秋



水彩画 リンゴとブドウと瓶と



水墨画 プラハ城

あけましておめでとうございます

栄区文化協会 会長 風間 聰彦

“この頃の気象はどうなっているの”
と、お思いになりませんか。天候に
限らずこの地上も、今大きく変わり
つつあるようです。社会の構造や仕
組みも、じわりと時に荒々しく変わっ
て来ています。

その時ヒトはどの様に反応するので
しょう。私たち文協の環境もまた同じです。会員が増
えない、イベント来場者数が伸びない、会員の高齢化、
練習会場が取れない等々頭痛のタネです。が、これら
の悩みを言い放し、聞き放しにせず“こうしてみよう”
の一言に繋げてみて下さい。文協会則第2、3条を読
み返し、一歩ずつ前向きに対応して行きましょう。
“転石 苔を生ぜず”。健康第一 も忘れずに。



栄区文化協会の発展を祝って

栄区長 尾仲 富士夫

新年あけましておめでとうござい
ます。

毎年、盛大に開催されます栄区民
芸術祭をはじめ、創作・教養・音楽・
芸能という幅広い分野における日々
の活動の一つひとつが、区民の皆様
に文化芸術にふれる機会を提供し区の
文化の振興につながっておりますこと、深く感謝して
おります。



横浜市では、横浜の活力と創造力を高める文化芸術
の振興を目指し様々な取組を進めており、栄区といた
しましても、引き続き、文化協会の皆様とともに区の
文化振興を推進してまいりたいと存じます。

今後も、栄区文化協会のますますの御発展を祈念いたします。

特集1 文化のこころ 園芸 菊花、美術 水彩画	2～4頁
特集2 栄区民芸術祭2014 創作・教養事業部、音楽・芸能事業部	5～7頁
コラム 栄区音楽事始め5 合唱	8頁

特集1 文化のこころ 園芸、美術 感動が創る文化

園芸 菊花 みんなで咲かそう栄区の花
栄区園芸協会 飯島 明

《菊つくりの原点についてお聞かせください》

40年前、当時県下では菊つくりの第一人者と高く評価され、神奈川県菊花連盟の重鎮でもあった伯父の作り上げた見事な大菊花に魅せられ、菊苗を貰ってきては我が家で栽培し始め、個人的に楽しんでいました。ここで土作り、肥料の与え方、水やり、鉢の移植、整枝の仕方、花の見方など実際の作業手順を伯父の菊つくり現場で体験し、更に先輩諸氏との菊談義に参加するなどしている間に、菊つくりの基本が身についたものと思います。初めて賞を頂いたとき、自分の菊つくりの力が評価されたと感動しました。本格的に菊つくりを始めたのは栄菊花会が発足してからです。

《栄菊花会の誕生から何年になるのですか》

戸塚区から分区して、栄区が誕生したのは、昭和61年11月3日です。この時新区の誕生を祝うかのように、第一回栄区菊花大会が開催されました。栄区役所の前では、菊花会員が丹精込めて栽培した300点余の菊花を多くの区民に観賞いただきました。

本年は栄菊花会の誕生29年目です。第30回の節目の菊花大会となります。秋には、栄スポーツセンター前、及び本郷台駅構内に展示しますので是非観賞してください。

《栄区の花は“キク”ですが、栄菊花会の取組みをどのようにお考えですか》

栄区役所のホームページによれば、区制5周年を記念して、“緑豊かな生活文化都市”にふさわしい区の花を募集した結果、“菊”が決まったとあります。「栄区では、今後“菊”を郷土の花として区民の皆さんに愛されるよう、その普及に努めています」ともあります。

栄菊花会では区の方針に沿って、栄区を菊花でいっぱいになるよう努力をしていきますので区民の皆さんのご理解と、ご協力をお願いしたいと思います。

《菊花の種類について教えてください》

菊は1500年も前に中国から伝承されたと聞きますが、当初は薬草として栽培されたようです。平安時代には、宮中で栽培されましたが、わずかに皇族、貴族の間で作られたにすぎません。江戸時代に入り、一般大衆の手に渡ると品種の改良、栽培技術が向上し、観賞用に栽培されるようになりました。新種が次々と生まれました。

観賞用菊花には、大菊、小菊、古典菊、丁子菊などがあり、仕立て方により、種々分類されます。主な菊花はつぎの通りです。

大菊は咲き方により次のように分類されます。

- ・厚物：花弁が周りから上部に向かって鱗状に整然と高く盛り上がり、満開時には、壮麗な花容となる大菊

の代表的な花です。

- ・厚走り：厚物の下部周囲から走り弁が四方に放射して咲く壮麗な花です。

- ・管物（くだもの）：花弁の太さにより、太管、間管、細管、針管に分けられます。厚物に比べ優雅な花です。

- ・一字文字：ご紋章菊ともいわれ、幅の広い平弁で、16弁を標準とする一重咲きの品種です。

また、仕立て方によって、七本立盆養、三本立盆養、ダルマ、福助があります。

小菊は古くから花壇、鉢植えに栽培され懸崖、盆栽、ドーム、スプレーなどがあります。

- ・懸崖：主幹に伸長性があり、芽吹き、枝張りが良く花首が短く花色が鮮明なものを選びます。前垂れ型と静岡型があります。

- ・盆栽：小じんまりと作る必要が有りますので、花が小さくあまり伸びない品種が向いています。

- ・ドーム：雨、風に比較的強いので最近人気の種類です。古典菊は嵯峨菊、伊勢菊、肥後菊などがあります。

秋になると栄菊花会をはじめ、全国的に菊花展が開催されます。豪華な大菊、絢爛たる懸崖作り、風情に富んだ盆栽作りなどお楽しみ下さい。

《菊育成のための年間作業はどのようなものですか》

菊には多くの種類がありますが、基本的手順に大差はないのでここでは大菊を中心にまとめてみます。

- ・冬、(12月)：花の終わった株は茎を10cm～15cmで切り、暖かく、日当たりの良い場所で管理します。液肥を与え、水やりも乾燥しない程度に施します。

(2月～3月)：挿穗（さしほ）の数を増やすため、枝の伸びに合わせ、切り詰める。挿し芽（4月～5月）の35日前くらいを目安に親株の最終摘芯を行います。

- ・春、(4～5月)：挿し芽をします。短幹種から長幹種へと少しづつずらして行います。根が1.5cm～2cm位に発根したら3～4号鉢に鉢上げを行います。苗が10cm位伸びたら三枝の発生を促すため摘芯を行います。

(6月)：鉢上げ後3～4週間で鉢の中が根で詰まつてくるので、6号鉢へ移植します。

- ・夏：6号鉢移植後3～4週間で鉢内が根で詰まつてくるので本鉢（9号）に定植を行います。肥料、水、温度などの管理が育成に最も重要な時期になります。真夏の直射日光は鉢内の温度を高め、根を傷める恐れがありますので寒冷紗で調整します。



代表種 厚物



一字文字（ご紋章菊）

・秋：菊は日照時間が短くなることによって花芽分化を始め、蕾が発生します。芯蕾(しんつぼみ)の他脇蕾(わきつぼみ)が多く出ます。芯蕾が小豆粒大位になったころ脇蕾を取り除いていきます。均整のとれた開花のために少しずつ鉢廻しを行います。雨の当たらない、やわらかな日差しの下で開花させます。開花状況に合わせ輪台を付け、展示会に備えます。

《菊花の育成管理の難しさはどのようなことですか》

菊花の性格上秋になり日照時間が短くなれば開花しますので、誰でも花を咲かせることはできます。しかし、秋、菊花展に出品出来る作品を作るためには、それなりの努力が求められます。梅雨時には特に病害虫が発生しやすく、1週間～10日ごとに消毒しなければなりません。また、真夏の水やりにも相当の努力が求められます。早朝太陽がカンカン照りになる前に菊鉢の水を抜く必要が有ります。更に、真夏の猛暑を避けるために寒冷紗で温度調整も必要です。一番苦労するのは台風です。突風で鉢が倒されたり、枝が折られたり、葉を痛められては大変です。これら全てが上手くいって、秋の菊花展への出品となります。

《菊花展で高い評価の得られる菊花とはどのようなものですか》

大菊の場合を例にとりますと

- (1)花に生氣があり、品種特有の色を鮮明に表し、花弁に光沢があること。
- (2)花弁は敷受け弁から中心に向かって鱗状に整然と抱え、球状に盛り上がり、花茎と盛り上がりの調和がとれていること。
- (3)花は無傷で、腐り弁、裂け弁などがないこと。
- (4)葉が折れたり、病害虫に侵されてないこと。
- (5)三本立、七本立盆養の場合、花は良弁で大きく、どの花も同じ位の大きさで、そろって満開であること。
- (6)花のみでなく、幹と葉と花の総合的調和がとれていること。

等が評価のポイントになります。

《菊つくり上達のためのアドバイスをお願いします》

菊つくり上達の第一歩をまとめますと

- (1)初心者は苗を自分で作ることは困難です。先輩から分けてもらうこと。
- (2)先輩の菊つくり現場で実際に作業を体験すること。
- (3)先輩諸氏との菊談義に参加し、先輩の経験、苦労などを身をもって感じ取ること。
- (4)菊の成長に合わせ、労を惜しまず、年間作業を遂行すること。
- (5)肥料、水は与え過ぎず、病害虫の消毒には薬品の濃度を薄めにすること。

等が考えられます。

丹精込めて育み、満足な菊花を咲かせることができたときは、こころから達成感を覚えます。栄菊花会で仲間と一緒に菊談義に花を咲かせませんか。

私の体験をベースに、菊つくりについて述べました。皆様の菊つくりの参考になれば幸いです。

美術 水彩画 感じる心を描く楽しい世界

栄区美術連盟 小華和紘記

《絵を始めたきっかけは何ですか》

小学生の頃は絵が得意で、絵の時間は楽しみでした。先生に褒められたり、展覧会への出品を薦められ、ノートやクレヨン等の賞を貰ったりしておりました。

以来 60 数年に及ぶ学生生活・社会人生活を経て、平成 13 年栄区が進めていた「町ぐるみ健康づくり」のウォーキングの会に参加しました。後に私が所属している水彩画のグループの講師となる桑野氏も参加されておられ、桑野氏の作品を見せてもらい、その作品に魅せられました。平成 15 年 4 月の金沢動物園へのウォーキングの際、皆さんに桑野氏の作品を紹介しました。同年 5 月 4 名で横浜港大桟橋へスケッチに出掛けました。この時の私の絵は構図が全く出来ていなく、絵の具を何度も塗り重ねているため濁った絵になっていました。いかに「感じる心」を失っていたか、「愕然とした絵」でした。こんな筈ではなかったという思いと桑野氏との出会いが水彩風景画に取り組むきっかけになりました。

《風景画に対する思いをお聞かせください》

風景画を描き続けて 10 年、描き溜めた絵は失敗作を含め 500 枚は超えました。失った感性を少しは取り戻すことが出来たような気がします。描こうとする風景を見ながら感じることは、自然がもつ「力強さ」「しなやかさ」「奥深さ」と、そこにある「絶妙なバランス」です。どう描くか苦労するところです。

描く技術が伴ってのことですが、「風景を切る」「目線と透視」「主役と脇役」等を理解することが必要です。「分からなくなったら直観に」そして「小さいことに手を抜くな」などを学習しました。

中国の故事でよく知られる「画竜点睛」…竜の絵に目玉を入れたら其の竜は天に昇って行った。一点手直し、加筆するだけで全体が引立ち活気を帯び、絵が生きてきます。山・田園等の風景であれば民家・車・人物を、海・川の風景であれば船をいれたりして全体を整えます。他人流に描こうとするとストレスが溜ります、自分流に描けばよい。自分だけの「楽しい世界」をもてればそれでよしとします。

昨年 9 月東京都立美術館の院展に行ってきました。どれも一流品で圧倒される大作ばかりでした。私たちの絵画はこういうものと違い親睦を旨とした趣味の会ですので、展示会場で知人の絵を鑑賞・歓談しながら交流を深めて貰えれば良いのではと思います。

《画風の特徴は何ですか》

透明水彩画の風景画です。画風の特徴は画用紙の四方 2cm 程度白地を残し、白い部分が新鮮さを与え、影も意識させるビネット画法というものです。透明水彩の「透明」とは、紙の色あるいは下に塗られた色が透けて見えるという意味です。古典的な油彩画に見られる宝石のようなきらめきを持つ透明感とは原理的に異なるものです。



この絵はいたち川の昇龍橋(かながわの橋100選)の風景を描いたものです。視点は橋脚とその水面に映った影の円形の中央に設定しています。また、橋の向こうの景色はおぼろげに描き、遠近感が感じられるように空気遠近法により描いています。

技法は、滲み、ぼかし、かすれ、重ね塗りなどを用います。階段付近の草地は滲みで、石組み、影、遠景にはぼかしで、土手面は重ね塗りで描いています。

また、これらの技法で描くための風景画のシルエットには水性サインペンを使用しています（洋画家・藤森悠二氏の手法を使用）。

《画材について教えてください》

水彩絵の具は透明水彩絵の具と不透明水彩絵の具（ガッシュ）があります。違いは顔料と展色材の比率で決まります。保湿剤に蜂蜜や水あめが使われたりしましたが、現在ではグリセリンが広く使われています。

私の風景画には透明水彩絵の具と使用紙との相性が良く、滲み・ぼかしに効果的な水性サインペンを使用しています。

筆はイタチ、リス、牛、馬、豚、ナイロンの毛です。イタチやテンの毛は最高級です。ナイロンを特殊加工して、動物毛に近いものが一般的に使われています。

私は丸筆の16～18号、少し小さいサイズの6号、面相筆を使用しています。

紙は細目（緻密な絵に）・中目・荒目（滲みを利用する絵に）があります。水彩画の本質は水溶性の絵の具の下に潜む紙にあります。紙が持つ性質と絵の具・水が持つ性質を活かし描画するものです。紙のない時代は羊・子牛の皮が使われていました。

私は滲みやぼかしを利用して描くために、荒目の水彩紙を使用しています。

《出品されている作品展について伺います》

出展回数約70回、様々な方の紹介や薦めがあつて多くの出品の機会を得ました。どの作品展も思い出はあります、私が印象に残っている作品展のいくつかを紹介します。

- 平成15年 栄区シニア連「趣味の作品展」：栄公堂で一般応募による初めての出展。
- 平成16年 本郷ふじやま公園：一周年記念での出展。

- 平成16年 2004年栄区民芸術祭「美術展」：栄公堂一般応募での出展。
- 平成18年 第1回遊彩会・水彩画展：リリスで初めての単独の作品展。特に印象に残っているのは、平成20年の第3回遊彩会・水彩画展は、栄区に隣接する古都鎌倉の鎌倉芸術館での開催であり、一度はこういう会場でと夢に見た展示会でした。また、平成23年の第6回遊彩会・水彩画展は横浜山手234番館で、異国情緒溢れる憧れの会場でした。
- 平成26年の2014年栄区民芸術祭「美術展」は、遊彩会参加10回目となり、栄区美術連盟として13年目の参加となりました。

また、平成22年の仲間と出かけたハケ岳スケッチツアーも楽しかった思い出として印象に残っています。



ハケ岳牧場風景

《水彩画の歴史はどのようなものですか》

歴史的には植物画・静物画が主でした。現代の水彩技法は15世紀末のデューラーの時代に始まります。ドイツ最高の芸術家で細密画を主とした近代水彩画の先駆者です。後に様々な画家たちによって受け継がれ発達、今日に至っています。水彩専門の画家のほか、油彩画で著名な画家、挿絵画家、彫刻家、版画家、建築家も水彩画に基本的に関わっています。18世紀には英国で広く普及し、貴族の子女の教養の一つとなっていました。軍人、測量士、技術者が地勢・防御施設・地形を記録するのに水彩画家も同行し、公共の事業や施設のプロジェクトのイラストを作成していました。風景水彩画を見ながら軍事・作戦会議を行っていたのかもしれません。水彩画が美術の分野として確立するのはこの時期です。

私たちが良く知る平山郁夫画伯のシルクロードの砂漠を歩くラクダの大作は、元は水彩スケッチ絵で後の仕上げは独創によりイメージを膨らませたものです。

日本で身近な存在となってきたのは明治以降、学校教育に取り入れられてからです。

《栄区美術連盟について伺います》

美術活動を通じて相互の親睦を深め、文化の発展に寄与することを目的として平成13年設立しました。作品展は秋の芸術祭及び春の文化祭、他にそれぞれの団体でグループ展を開催しています。

現在、水彩画、油彩画、水墨画の11団体が参加しており、会員数は135名です。ピーク時187名でしたので会員減が顕著です。他で活動のグループを多く見かけますし、区内高校の美術部の生徒を含め潜在する愛好者は200～300名或はもっと多いかもしれません。

今後の美術連盟のあり方を考えなければと思っております。

特集2 栄区民芸術祭2014

《創作・教養》

美術家協会展 (10/15~10/19)

リリス

栄区民芸術祭のトップスターとして、心を込めて製作し展示しました。会員一人ひとりの個性溢れる絵画や立体作品に来場の方々は熱心に丁寧にご覧下さり、楽しんでいただくことが出来たと思います。来場者は773名でした。これから更に研鑽を重ね、自由な心象表現を追求し魅力ある展覧会を目指して行きます。チャリティーバザールは今回で早6年目となり、多くの方々に協力していただいております。

絵はがきやミニ絵画、陶芸の茶碗やアクセサリー等、好評でした。今年も栄区社会福祉協議会に116,300円を寄付することが出来ました。ありがとうございました。

美術家協会 柳澤桂子



写真展 (10/21~10/25)

リリス

今回の参加者は89人(90点)となり、リリスギャラリーA・Bは見事な作品に彩られ、5日間の開催中には632名の来場者を迎えることが出来ました。雨天が続く中で来場者の足の運びを心配しましたが、会員の広報活動が実ったのか・・芸術祭を楽しみに待たれている方が多くなったのか・・会場は満ちみちていました。

栄区最大のこの写真展に来場された方々には作者の感動がより多く伝わり、山手学院の生徒さんたちのユニークな作品や切り口には新しい発見をされた方も多くいらっしゃったようです。 フォト SAKAE 野仲加津子



陶芸展 (10/21~10/25)

リリス

初日から3日間雨が降り大変心配でしたが、多くの方々が来場されました。お子様連れの来場者に人気があったのは「トトロ」でした。かわいらしく展示して、来場者に愉しんでいただくことができ、会場は賑やかでした。また、LEDを使い「あかり」を灯した作品も好評でした。

来年も楽しく、賑やかな展示をめざし、作り手も来場者も共に楽しめるものにしたいと思っています。

陶芸・土の会「樂」 川井綾子



書道展 (10/26~10/30)

リリス

過去2年間に栄公会堂カルチャーセンターに2つの

書道教室が開設されたことにより、当協会は12人の新入会員を迎えることができました。このこともあり今回の書道展には、書道部門で昨年を大きく上回る62点作品が、一方、篆刻部門で昨年を僅かに下回る51点が出品されました。

近年、区外からの来場者が増えていますが、今年はその数が一挙に昨年比で倍増、全体の1割に達しました。書と篆刻は制作者、鑑賞者のいずれをも心豊かにします。あなたも始めませんか。

書道協会 柳田煌海



美術展 (10/31~11/4)

リリス

会期中の5日間は行楽に読書に食欲にスポーツにそして芸術に、正に秋真っ只中、市内・区内では様々なイベントが開催された期間です。

11月1日(土)には近くの本郷中学校で「区民まつり」が開催され、雨天にも関らず買い物袋を抱えた来場者も見受けられました。更に文化の日を含む3連休も重なり954名(昨年855名)もの多くの方が来場されました。身近で親しみ易い作品展となりました。

美術連盟 小華和紘記



手工芸展 (11/6~11/9)

リリス

芸術祭最終展示でした。展示参加人数は97名、作品約400点と多種多彩な作品に富み、華やかに展示が出来、見に来られた方々も大変感心されて、各ブースでは質問が飛びかいおおいにぎわいました。テレビ放映を見て来場された方もいらっしゃいました。

体験講習にも多数の参加があり、特に土、日曜日には多くの小学生が自分の手作り品に満足顔でした。無事終了することができ、ホッとしています。

手工芸・SAKAE 佐野由美子



生け花展 (10/30~11/1)

公会堂

栄区芸術祭の3日間の展示に多くの方々の御高覧に感謝。会場が暗い処もあるので不公平にならぬように毎年席順を移動しています。ゆったりとしたスペースに格式のある正花や華やかな現代花を見事に発表。

お気づきになったでしょうか?本年も会場に来られ

た方々を心からお迎えするのに「栄区の花、菊」を流派ごとに毎年順番に生けて入り口に飾っています。意外とご存じなかった方がいらっしゃることに気づかされました。これからも格調と親しみのある活動を続けていきたいと思っています。

華道協会 志岐美玉



園芸展「盆栽・さつき・山野草」(11/2~11/4)

公会堂

居ながらにして自然の秋を感じ取れる盆栽・山野草・東洋蘭の作品がたくさん展示され、各会員の1年を通した丹精が偲ばれました。年々作品のレベルが上がっているように思われます。

特に展示会の初日には天候が優れなかったにも関わらず、例年にはないほどの見学者が訪れ、盆栽の持つ重厚感や、逆にごく小さな鉢に咲いた可憐な花や赤、青、黄の実をつけた実成り盆栽に感嘆の声も聞かれました。盆栽や山野草に興味を持たれる方も多く、園芸談義も大いに盛り上りました。

園芸協会 松澤淑雅



第29回栄区菊花大会 (11/2~11/12)

栄スポーツセンター前、本郷台駅通路

近年の猛暑日熱帯夜が9月中旬まで続いたのとは裏腹に8月21日から急に曇りや雨で涼しい日が月末まで続き、栄区菊花大会に限らず、関東南部の菊は早く咲き過ぎて、ミゼラブルな菊花大会でした。高齢者が多くなり、会員数も若干の減少が続き、栄区の花である『菊』も、特に大菊厚物の出品数が減りましたが、古典菊と盆栽は若干増え、合計としては昨年に近づき、花壇や駅構内の色とりどりの菊は昨年並みの出来で、それなりには活気づいた菊花大会でした。12月7日に尾仲区長、志岐文化協会副会長のご列席をいただき表彰式を行いました。

栄菊花会 神田勝衛



礼法 (10/31~11/2)

公会堂

日本人は昔から四季おりおりの季節を愛し、風月を賞(め)でようとする心があり、それは生活の隅々にまで浸透しています。

今回は昨年に引き続き“七夕の節供”の床飾りを王(おも)に展示しました。会場にいらした方々から様々なお尋ねを受け礼法に関心を寄せていただきうれしく



思いました。また、体験教室は家庭での「茶菓のおもてなし」の心得を実施し、徐々に参加者が増え和気あいあいの3日間でございました。ありがとうございました。

礼法真和会 前田菱紀

囲碁まつり (11/3)

公会堂

初めて囲碁に触れる子供から高段者まで、総勢170名が集い、入門講座、棋力別の対局、認定会とそれぞれに分かれて、楽しい一日を過ごしました。



入門講座では小学校低学年の子供たち(12名)が真剣なまなざしで講師の話を聞いているのが微笑ましく印象的でした。付き添いのお父さんお母さんたちも一緒に楽しんでいるようでした。プロ棋士による大盤解説、次の一手クイズ、直接対決の指導碁など、盛り沢山の企画で盛り上がっていました。また、予想を大幅に上回る参加者があり囲碁愛好者の増加を嬉しく思いました。

囲碁連盟 藤田 剛

お茶会 (11/1~2)

公会堂

お茶席では「お抹茶と季節の和菓子」でのおもてなしで、お客様にお楽しみ頂き心の交流を深めながら年毎に会を重ねて参りました。広々とした空間と大きい窓からの秋の風情を眺めながら一服のお茶をお楽しみ頂くホワイエの立札席は気楽におはいりできるので大勢のお客様に好評でした。



一方、二階和室のお座席は本来のお茶席の雰囲気の中で正座して(椅子の用意もあります)お茶を頂く少々緊張感のあるお席ですが、それぞれに体験できたとの感想を頂きました。堅苦しいとの先入観から敬遠される感もあったようですが、お客様に満足していただけますよう努めて参ります。

茶道会 平野宗昌

《音楽・芸能》

合唱の祭典①② (10/18・19)

公会堂ホール

今年の合唱の祭典では「テーマを！」という声に応えて“歌と緑の街・栄”を掲げ、実践しました。出演団体其々が、緑の木の葉をデザインしたプラカードで入場し、植えて行く。その木々がステージ上に集まり花と緑の前で歌を歌うという和やかな空間を作りました。



出場者・来場者が2日間で1000人を超え、招待の3校の中高生の爽やかな演奏や多くの団の思いを込めた衣装と歌声



で楽しく美しい合唱の祭典となりました。

最後は出場者の合同演奏、会場全体での合唱「栄区賛歌」で会場全体が一体となり大盛況の中で幕を閉じました。

合唱部門 今本真理子

器楽の祭典①(11/8)・②(11/16)

公会堂ホール・リリスホール

器楽の祭典の2日間は無事に終り、年々腕をあげて、今年も素晴らしい演奏会となりました。

特に、招待演奏の西本郷中学校が若々しく元気いっぱい演奏をされ、栄区賛歌の会場の皆様との大合唱は、よい想い出になったかと思います。

お客様にも参加して頂き、出演者と一体となった演奏は楽しく、とても良い音楽祭でした。

明日からはまた、来年の演奏会に向けて新たな練習が始まるとですね！！

器楽部門 阿部真由美



素敵なすてきなクラシックコンサート(11/3)

リリスホール

今年の「素敵なすてきなクラシックコンサート」は、1部は名曲コーナー、2部では初めての試みとして子供でも楽しめるオペラ「ヘンゼルとグレーテル」を企画しました。時間の関係で全曲行うわけにはいきませんでしたが、あらすじが途切れないように、45分にまとめ上げました。

出演者自身が楽譜のカット、とりまとめ、小道具作り、衣装作り、チラシ、プログラムの作成などすべてをこなし、精神的にも、体力的にも大変でしたが、やり遂げた達成感を味わうことができました。

来場してくださったお客様、小さいお子様から、大人の方まで楽しかったと好評を得ましたが、力を入れた企画にもかかわらず、例年よりお客様が少なく残念でした。これに懲りずいろいろな試みに挑戦していきたいと思います。

栄ソリスティ瀬畠久美子



シャンソンの夕べ(11/3)

リリスホール

今年は250名のお客様を迎えて、温かい声援を頂き、会員一同感謝しております。今年で17回目、平均年齢は上る一方、とにかく歌うことが大好きな仲間。すべて手作りのコンサートであり、毎年工夫して上達しているつもりです。



今後も力を合わせ精進したいと思います。

さかえシャンソン同好会 中妻久子

栄フィル名曲コンサート(11/9)

公会堂ホール

秋のひと時、377名のお客様が来場。可愛い序曲で幕が開き、オーケストラ協奏曲では澄んだ音色がホールに響きました。次の音へとむかう一瞬、その余韻を味わうようにホール全体が静まりかえり、客席とオーケストラが一体となる瞬間がありました。



ベートーベン「運命」では、「全樂章を通して聴くのは初めて！」という家族連れもいらして大変好評でした。

演奏が終わると、会場は拍手から手拍子に変わりお客様に支えられて演奏できる歓びを団員も感じながら和やかなうちに幕を下ろしました。

栄フィルハーモニー交響楽団 成沢まり子

芸能部秋の祭典(10/25・10/26)

公会堂ホール

恒例の秋の芸能祭も無事に終わりました。実は今回は詩吟の会員数が増えましたので、割り振りに苦心いたしましたが、皆様のご協力によりなんとか収まりました。

今回は会員以外から公募でフラダンスの会の皆さんにご出演いただき賑やかに花を添えていただきました。また事前にチラシ等により宣伝したのがよかったです。前回よりお客様も多く喜んでおります。知らなかつたという人もだいぶ居られたようです。



最後に会場全員で栄区音頭を唄って踊って楽しいフィナーレとなりました。

芸能部 原田直真紗

さかえ邦楽の集い(11/3)

公会堂ホール

11月3日は文化の日、まさに文化にふさわしい「邦楽の集い」を設定したのは、「栄区邦楽協会」が発足してからで、今年で17回を数えます。

発足の当初はかなりの団体がありましたが、年齢のせいもあるってか、今では6団体に減少してしまいました。

会員が減少しても、日本古来の伝統芸能の素晴らしさを、演奏する者だけでなく、お客様にも伝えられる、楽しく活気のある舞台にして行きたいと思っております。



邦楽協会 角田操子

コラム 栄区音楽事始め5 合唱 原点は「第九」から 栄区音楽協会初代副会長 土居繁子

栄区の音楽活動に係わってかれこれ30年、私の合唱人生は新生栄区の祝賀行事「第九演奏会」から始まりました。提案者は区役所、連合町内会、野村高一先生（前コール豊田指揮者）だったと記憶しています。知人の合唱指揮者から栄区在住の貴女が適任と推薦され本郷地区センターの会議室での話し合いに参加しました。昨今は当たり前のように各地区で「第九」が演奏されていますが、30年前の世相では一つの街で取り上げることはエネルギーのいる夢のような話でした。

「第九演奏会発足会議」では連夜のように熱い討論がなされました。疑心暗鬼の私達を引っ張って下さったのは野村先生でした。「先ずやってみよう」と言う結論で練習を開始したのは本番の半年前でした。指導者には野村先生から千葉倫子先生（前ブルーエコー指揮者）が紹介され、千葉先生から金川明裕先生（ヘンデル室内合唱団・薰風指揮者）が紹介されました。練習会場に小・中学校の音楽室、体育館などをお借りして練習が始まりました。素人軍団の私達を3人の指導者は根気よく指

導され、私達の音楽の可能性を引き出してくれました。初めての「第九」に励み、その魅力にはまり込みました。週1、2回の練習は冷房もない会場でした。

1986年11月3日は大雨でした。柏陽高校の体育館で会場狭しと歌い上げた新生栄区祝賀行事のベートーベンの「第九」は、生涯忘れられない想い出のひとつです。その後すぐに歌った仲間達と栄区民合唱団を作り、3人の先生方のご協力と他の合唱団、栄フィルとの連携で栄区の音楽活動は益々盛んになり、10年後の1996年（平成8年）に音楽協会が結成されました。そして結成20周年目を迎えようとしています。



現在、私は久しぶりに栄区の「第九」に挑戦しています。2月1日のみなとみらいホールでの演奏会に向けて頑張ります。「第九」はやっぱり声高らかに仲間と共に歌わなくては……。

トピックス 第19回さかえ春の文化祭 春の音楽祭「作曲家・加藤昌則と栄区音楽協会の仲間たち」栄区出身の作曲家と地元音楽協会とのコラボレーションが実現！！ 栄区音楽協会 橋本 洋子



加藤昌則（作曲家・ピアニスト）がユーモア溢れる軽快なトークで紹介するスペシャルコンサート。

第1部 耳で知るスピード日本音楽史

日本における音楽の歴史を楽しくわかりやすく、歌い継がれているおなじみの曲を児童合唱、女声合唱の歌声に乗せて一気に紹介！

第2部 裏情報満載で名曲鑑賞教室

作曲家や曲の誕生に関する興味深い話を、弦楽、ピア

ノの演奏とともにクラシックの名曲をお届けします！

♪演奏は加藤昌則と音楽協会メンバーの共演です♪

* 演奏曲等の詳細はチラシをご覧ください

公演日：平成27年3月1日（日）開場13:30 開演14:00

会場：栄区民文化センターりりす

入場券：全自由席 一般 1,500円

文化協会会員 1,200円

問合せ先：栄区音楽協会（橋本）☎・FAX 045-894-5165

あけましておめでとうございます 栄区文化協会賛助会員（順不同、敬称略）

小菅ヶ谷連合町内会 自治会会长 田中 房一	柴崎内科クリニック 柴崎 洋一	(有)みのくち 長瀬 安敏	NPO法人未来塾 浅井 凪	(有)カウベルコーポレーション 中村 進一
鎌倉カントリークラブ 総支配人 田中クリス	上郷フィールドアスレチック 高橋 昭義	(有)久保田塗装工業所 久保田一彦	小菅ヶ谷町内会 会長 田中 房一	箏・三味線のぼる 根本 昌之
栄区飲食業同業組合 理事長 佐相 幸延	税理士 角田 晃孝	タクノ印刷 中森 孝久	(株)タツノ 龍野 廣道	(株)司地所 郡司 薫
特養老人ホーム上郷苑 篠原 正治	(有)豊田印刷所 金子喜久男	上郷町 長瀬 清子	(有)ナカムラ生花店 吉田 敬	野村医院 野村 武
ふれあいショッピング さんぽみち 名里 晴美	宮古寿司本店 楠 明	横浜銀行 本郷台支店	よこはま緑の推進団体 栄連絡会会長 榎本イク子	(有)よろい寿司本店 近江 清
(有)ライトスタッフ・スタジオ 森 雅宏	和菓子舗 龍月 鎌田 忠			

編 集 後 記

本号は、恒例の会長、区長の新年のご挨拶、連載の特集1「文化のこころ」、コラム「栄区音楽事始め5」に加えて、特集2として秋の「栄区芸術祭2014」を掲載し、会員諸氏の活躍の様子を盛り沢山お伝えします。

さわやか第47号 新年号

平成27年1月15日発行

栄区文化協会会長 風間聰彦

編集 奥野知行、中田 健